

間もなくお盆の季節となります。お盆は、日本の多くの地域で行われている習慣です。地域により違いがありますが、七月もしくは八月の十三日にお墓に参り、提灯に火を灯して先導してご先祖さまや亡き人を自宅にお連れし、盆棚に御供えをして一緒に過ごし、十五日もしくは十六日にお墓にお送りするというものです。

新盆を迎える方にとっては、大切なご家族と再び自宅でご一緒する機会です。又、新しい仏さまがいらっしゃる方にとっても、あらためてご先祖さまをお迎えして過ごす機会であり、どちらも亡き方々が“いますが如く”に過ごす大切な時間です。何かと忙しい現在ですが、亡きご家族と向き合う時間として、大切にしていなければと思います。

亡き方と向き合うという時は、さまざまな思い出を思い起こすことでしょうし、立ち止まってこれからを考える機会ともなるでしょう。故人に受けた恩に報いることを考えるかもしれません。考えてみますと、故人の恩に報いるということは、今の自分が故人に安心していただける様な生き方をしていくことといえるのではないのでしょうか。

一方、ご先祖さまと向き合うということは、今よりもおそらくは大変な時代を生き抜いたであろうご先祖さまがたの生き方に思いを馳せるということでもあります。

この日本では、アジア太平洋戦争などをはじめとするさまざまな戦乱や自然災害など、いのちの保障も無い時代を経て来たこと。何度も浮き沈みを繰り返す経済や社会状況を経て来たこと……。

そして、それら乗り越えて聯綿と続いてきた、いのちのつながりによって存在する自らのいのちの尊さに気づくことができるのです。それぞれのいのち全てがこの世にひとつだけの尊い存在であることの有り難さに気づいた時、自分自身、そしてそのいのちを大切に思えるのではないのでしょうか。

亡き方のための習俗、習慣としてのお盆ですが、改めて考えると、私たちの生き方に繋がっているということがわかります。今年のお盆も丁寧にお参りしたいものです。